

# 水田たより 6月号

令和4年6月1日

JA みえきた

桑名地域農業改良普及センター

## カメムシ防除を徹底しましょう！

カメムシの吸汁被害に遭うと、出穂して間もないころは「不稔」に、乳熟期以降は「斑点米」となり、収量・品質が低下します。令和3年の水稻栽培では、管内でカメムシの吸汁被害が散見され、一部地域では大きな減収要因となった事例がありました。

下記の3つのポイントを押さえて徹底防除し、収量・品質の向上に努めましょう。

### 薬剤での適期防除

出穂期前後と乳熟期の2回防除を基本とし、発生状況で回数や時期を調整しましょう。  
2回目の防除は、1回目に防除を行った時と違う系統の薬剤を使うとより効果的です。

### 地域が一体となった一斉防除

一部のカメムシは飛翔による移動性が高く、防除を行っていない圃場や薬効が切れた圃場で増殖し、時には大きな被害をもたらします。

地域が一体となって一斉防除を行い、カメムシのエサ場をなくしましょう。

### 除草などの雑草管理

カメムシは水田周辺の畦畔や農道、休耕田などの雑草を住処として繁殖します。これらの場所からのカメムシの増殖・侵入を防ぐため、6月上旬から出穂10日前にかけて、数回除草を行いましょう。

#### ■ 畦畔除草の省力化の紹介

夏場の除草回数を減らしたい 畦畔除草まで手が回らない

獣害柵の下をしっかりと除草したい

薬剤を用いた除草体系で  
草刈りの省力化ができます

夏場は雑草の生育も旺盛で、草刈りをしてもまたすぐに雑草が伸びてきます。下記の体系防除では、夏場の草刈り回数を削減しつつ斑点米カメムシ類の発生場所を減らせた事例があります。

茎葉処理剤  
薬液がかかった  
茎や葉を枯らす

+

土壌処理剤  
処理層を形成し、  
雑草の発生を抑える

※農薬の使用にあたっては、ラベルに記載された内容（使用回数、成分の総使用回数など）を十分に確認してください

詳しくは、JA または桑名普及（水田担当）までお問い合わせください。

## 大豆「サチユタカ A1号」の紹介

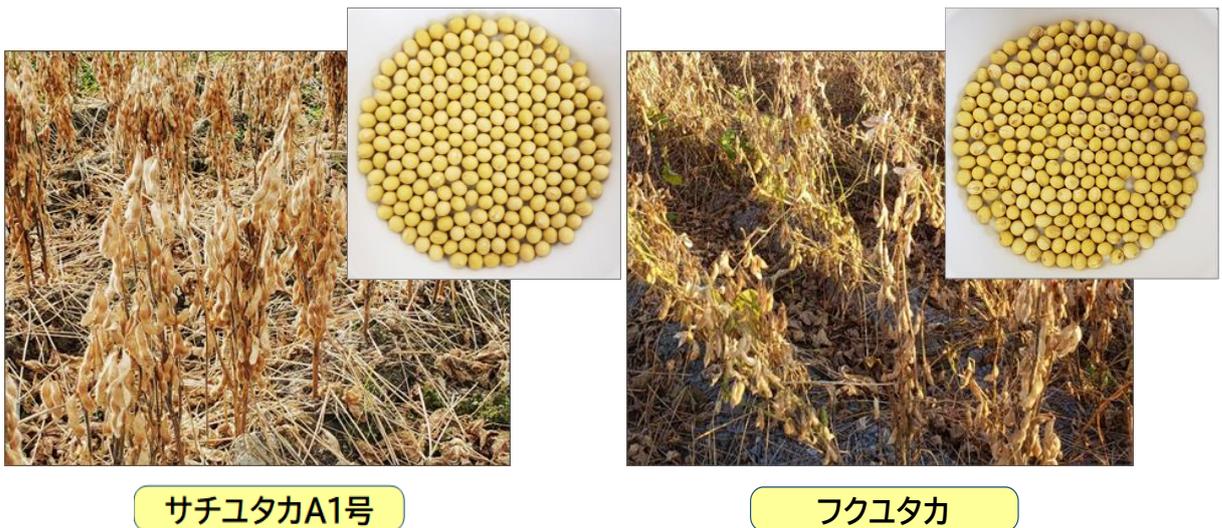
現在、管内で試験栽培されている新品種「サチユタカ A1号」は早播きしても蔓化しにくく、また、成熟期以降も莢がはじけにくい特徴があります。麦収穫後の6月中旬から播種できるので、「フクユタカ」との作業分散を目的とした導入が期待されます。

ここでは、管内で昨年度に実施した「フクユタカ」との比較試験の結果を紹介します。

### 「サチユタカA1号」試験栽培の結果(「フクユタカ」との比較)

いなべ:令和3年6月10日播種、桑名:令和3年6月24日播種

試験圃場	品種	成熟期 (月.日)	主茎長 (cm)	最下着莢 (cm)	総莢数 (個/m <sup>2</sup> )	百粒重 (g)	坪刈り収量 (kg/10a)
いなべ市	サチユタカA1号	<b>10.28</b>	38	9	794	<b>39.0</b>	352
	(比較)フクユタカ	11.03	60	14	773	31.0	364
桑名市	サチユタカA1号	<b>10.26</b>	37	13	722	<b>37.8</b>	374
	(比較)フクユタカ	11.04	74	15	834	32.5	294



フクユタカと比較して

- ・開花期が早く、成熟期は6～9日早くなりました。
- ・主茎長はかなり短く、倒伏しにくい姿でした。
- ・莢数はほぼ同じで、百粒重は大きいので、収量性はやや高くなりました。
- ・莢がはじけにくい特徴があります。

➡ 蔓化や倒伏の心配が少なく、麦収穫後、早くから播種できます。

さらに、中耕や防除の作業を適期に行うことで、収量向上を図ることができます。

今後、試験ほ場を見学できる研修会も計画中です。時期等については改めてお知らせします。